

青森ヒバの 優良挿し木品種の開発を目指す

林業研究所

青森ヒバは、秋田スギ、木曾ヒノキとともに日本三大美林の一つに数えられ、耐朽、耐虫性に極めて優れた建築用材として取り扱われており、県内の重要な造林樹種の一つとなっています。しかし、**ヒバはスギに比較して成長が遅く、また個体間の成長のバラツキが大きい**という欠点があります。そこで、成長のバラツキが少ないとされる挿し木苗を造林用として利用を図るため、**成長や発根率等に優れた挿し木品種の選抜調査**を行ったので紹介します。

選抜調査の概要

選抜調査対象： 県内の森林から成長や形質が周囲の個体より優れているとして選抜された78品種

調査項目

1 初期成長調査
↓
植栽5年後の樹高

2 生存率調査
↓
植栽5年後の生存率



植栽試験地(5年目)

3 挿し木発根性調査
↓
発根率を5段階評価



ミスト温室での挿し木

4 漏脂病抵抗性調査
↓
接種検定ヤニ流出を5段階評価



病原菌を感染させた種駒



種駒による接種試験



ヤニの流出状況

5 樹皮裂(凍害)抵抗性調査
↓
被害率を5段階評価

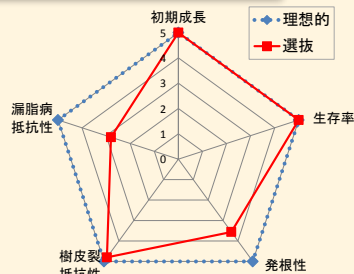
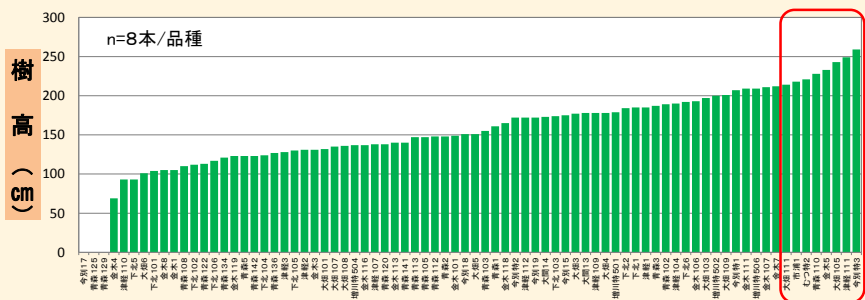


被害部の切断面

被害部位

選抜調査の結果

初期成長が良好な品種を第一に考慮し、その他の項目が極端に悪くなかったことから、**樹高上位8品種をヒバ優良挿し木品種候補として選抜しました。**



今後の展開

今回選抜した8品種(今別特3号、津軽111号、大畑105号、金木5号、青森110号、むつ特2号、市浦1号、大畑111号)は、10年後の実用化に向けて山地での植栽試験を進めていく予定です。

お問い合わせ

林業研究所 森林環境部 (TEL017-755-3257)